

富士中だより

八丈町立三根学園富士中学校 令和3年11月20日 第7号

ホームページ <http://www.hachijomachi-tyo.ed.jp/fuji-jhs/>

◇ 学校教育目標 ◇
自ら進んで学ぶ生徒
人や自然を愛する生徒
健康でねばり強い生徒
《校訓：自主・敬愛・根気》

～大人は黙って見守る 新しい指導観～

校長 野田 博之

慌ただしい2学期もようやく後半に入りました。富士中三大行事である運動会、八丈管内陸上記録会、合唱コンクールを終えるとともに、1年生は読み聞かせ学習の準備、2年生は坂上班行動学習、3年生は修学旅行に取り組みました。行事が続き、疲れが抜けない人もいましたが、自己有用感を高める経験を積むことができました。事前準備・学習から始まり、仲間と協力し、生徒たちは自主的に取り組み、素晴らしい成果を上げることができました。生徒たちの学習意欲が高まる学校行事は、改めてその教育効果が高く、必要であることを認識しました。「行事は頑張る」ではなく、「行事も頑張る」生徒を育成できるよう、普段の授業や部活動でも自己有用感を高める経験を積ませたいです。

先日、愛知県岡崎市で「サイレントリーグ」というサッカー大会が行われたという記事が新聞に載っていました。参加したのは市内の12の公立中サッカー部でした。この大会の特別ルールで、①指導者は指示を出さない、②ウォーミングアップ、メンバー選定、交代は生徒が行う、③各校の部員全員が納得できる出場時間や役割を考える、があります。子どもの主体性を引き出すために大人は黙ろう、とかく大人が言い過ぎ、子どもの行動を縛りがちな指導への反対の主張がこめられています。

参加した生徒たちの感想は「『自立』が、勝利に向けても大事だと感じた」、「普段、細かいところまで先生に任せているから、本来の力が出ないのだと感じた」などがありました。また、指導者たちの反応は「自分は前に出てしまいがちなので、こういう機会に新しい指導観が生まれるかもしれない」、「生徒には、『先生に従った方が楽』という面と、自分で決める不安があると思う。そこから解放され、自分で決める楽しさを体験すれば自信につながる」など感じていました。よかれと思って先読みし、大人が声をかけたために生徒たちが自分で考える場を失ってしまうという視点は我々教師も日々の教育活動の中で自覚していかなければならないことだと痛感しました。

先で行われた修学旅行は例年とは少し様子が違う場面が節々に見られました。元来、5日間という期間、初めて訪れる生徒が多い中での集団活動は危険や不安が伴います。そのため教師が早めに先を読み、指示を出し、安全を第一に考えて指示を出しながら進んでいくものです。すぐに教師に頼ろうとする生徒がいたなら「自分でしおりを見なさい！」と返答するシーンが多く見られるものでした。それでもしおりを見ない生徒にしていねいに指示を出す教師も見られます。

今回、どこまで事前学習を積んできたかの詳細はわかりませんが、修学旅行中の教師からの指示は最低限の回数となっていました。その指示も生徒の質問に対してのみ返答するもので、教師が先読みして指示を出すものではありませんでした。しおりをしっかりと頭に入れずに参加している私にとって、開始当初は不安を感じる場面が多々ありました。徐々に生徒の様子を見ているとわからないことがあると隣のひとと、あるいは班の仲間と確認し合っていました。本来の目的と異なる意見が出ると歯に衣着せず今やるべきことを相手に簡潔に伝えていました。受け取った相手も納得して次の行動を始めました。どうしても教員に尋ねる場合もしおりに書いていないことに関して、答える教員もその質問のみに答え、その答えを受け取ると生徒はすぐに仲間たちとの会話に戻って行きました。このように自主的に取り組み、考えて行動したからこそ、事故やトラブルなく達成感のある時間を過ごせたことでしょう。

多くの教師たちはコミュニケーション能力が高く、簡潔でわかりやすく、人を惹き付ける魅力ある話術を身に付けています。こういった能力は今後も限られた時間内での保護者や地域の方々との共通理解、教員間の組織力向上に役立っていきます。そして、授業ではこうした能力を封印し、教師が案内役として最小限の発言に抑え、生徒を見守ります。その結果、多くの時間が生徒たちの自己表現の時間になるような授業を展開し、ICT機器も活用しながら自己有用感が高まる時間にしていきます。行事の経験もそうであるように体験した経験は記憶に残り、テスト前にやむを得ず暗記をする時間も減り時間を有効に使えるようにもなります。

大人は黙る、という指導観はまだ違和感が残るかも知れません。ぜひともお忙しい中ですが学校公開などを活用し、学校に足を運んでいただき、1時間だけでも授業を参観し、ご一緒にお子様を見守っていただければ幸いです。そして、ご家庭でも何回言っても改善できない事柄について、黙って見守る方策を活用していただければと思います。富士中は今後も変化の激しい時代に合わせ、時代に適応した教育活動を推進していきます。

2学年坂上班行動

10月29日（金）に坂上班行動を実施しました。班毎に樫立・中之郷・末吉の3カ所に分かれ、それぞれの目的地を巡りました。実行委員が考えた「Thinkingからのdoでshare！！」というスローガンのもと、事前学習では見学地について調べたり、タブレット端末を活用して移動時間の算出や行動計画の検討などを行いました。当日は、班長を中心に計画と時間を照らし合わせながら協力して行動することができました。末吉地区では震洋壕、中之郷地区ではめゆ工房、樫立地区では服部屋敷など、自分たちだけではなかなか行く機会が少ない見学地を訪れ、多くの生徒が実際に現地に行ったからこそその学びを持ち帰ることができました。事後学習では、それらを模造紙にまとめて互いの学びを共有することで、八丈島についての理解を深めることができました。また今回一人一人が自分の役割に責任をもって計画や行動できたことは大きな成果であり、細かな反省点はありましたが、初めての校外学習としては「成功」といえると思います。この経験を、今後の学校生活や来年度の修学旅行に活かして行ってほしいです。（2学年主任：福田 渉）



ちょんこめ交流会

10月19日（火）にちょんこめ作業所に訪問してきました。昨年度はコロナウイルス感染症予防対策で実施できなかった活動を再開することができて、とてもうれしく思います。25日（月）には事後学習として作業所から、所長の西尾さん、所員の野村さんが富士中まで来てくださり、講演をしていただきました。野村さんが入所するまでの経緯だけではなく、西尾さんがちょんこめ作業所に勤めるまでの経緯までお話ししていただきました。中学3年生の人生観まで変えてしまうような壮大な内容で、感動しました。

（3学年：金丸 恵美）



福祉教育

10月12日（火）、3年生は福祉教育として車椅子体験を行いました。1年生の「高齢者体験」、2年生の「アイマスク体験」に引き続き、社会福祉協議会の佐々木様に来校していただき、車椅子の操作方法について講習をしていただきました。実際に車いすを押したり、車椅子に乗って介助をしてもらうことで、福祉に対する理解が深まったと思います。今後車椅子を使っている方に会った時は、積極的に手助けができるようになってもらいたいです。

（3学年主任：小泉 国広）



ワンランクアップ学習発表会

10月23日(土)にワンランクアップ学習会を行いました。各学年を縦割りし、全10グループでChromebookを活用した効果的な学習方法について互いに発表をしました。当日は3年生が司会者、発表者となり話し合いを掘り下げたり、各グループでの話し合いをまとめて発表したりと発表会を引っ張ってくれました。

おすすめの学習サイトの紹介や学習ソフト「すらら」を使つての検定対策、自分の学習時間を表計算ソフトで記録するなど様々な活用法の発表がありました。生徒は自分の経験を生かして、各種テストや学習内容の理解・定着に向けてChromebookを活用していました。学習への取組方法を伝え合うことで、学習力の向上や学習意欲の向上につながったようです。学習方法が多様化する中でChromebookが一人一台になり、生徒は様々な選択肢の中から自分に合った学習方法を考えることができるようになりました。今回の学習発表会を通して選択肢が増えたことで今後の学習に生かして欲しいです。
(進路指導主任:山下 孝輔)



合唱コンクールを終えて

今年度の合唱コンクールを、11月6日(土)におじゃれホールにて無事に開催することができました。今年度も感染症予防の観点から、練習でのマスク着用や人と人との距離、合唱隊形などに制限を加えて練習を行いました。どの学年も限られた期間での練習に一生懸命取り組み、精いっぱい歌声をホールに響かせました。

今年度から表彰内容が変更され、3年生がゴールド金賞、2年生が銅賞、1年生が銀賞という結果になりました。それぞれの学年ごとに基準は違うので単純な比較はできませんが、それぞれの学年の持ち味が存分に発揮された合唱でした。なかでも3年生はさすがの合唱を披露し、アンコール合唱では涙ながらに歌う人もいて、コンクールの最後に花を添えました。「皆が笑顔で楽しく、一丸となって互いを高め合うような合唱コンクールにしていきたい」という意味が込められた全体スローガン「笑面唱凸」にふさわしい合唱コンクールになりました。

今後も学校における歌唱活動については、感染症予防に注意を払い制限をしながらの活動になることが予想されますが、今年度の練習を生かし、来年の合唱コンクールがさらに素晴らしいものになることを期待しています。

(音楽科:木下 真一)



～クラスアピール担当、実行委員長より～

【1学年クラスアピール担当：平井 大地】

合唱コンクールを終えて、思ったことがあります。それは、とても緊張してしまったということです。私は、人前に立って何かをするのが苦手なので、とても緊張していました。緊張のせいで、練習どおりできなかったのですが、周りの人からは「よかった」と言われたので、とても安心しました。来年は、今年以上にたくさん練習して、人前に立っても緊張しないように努力をしておきたいです。

【2学年クラスアピール担当：持丸 結衣】

2年生の合唱コンクールは、すごく悔しい結果になってしまったけれど、みんなで頑張って練習して、本番も楽しく歌えたので、良かったと思っています。みんなすごく緊張していたけれど、お互いに「頑張ろうね」と声を掛け合ってすごく絆が深まったので、良い思い出になりました。来年は、3年生で最後になるので、今年の合唱コンクールで振り返ったことを練習に生かして、悔いのないように、そして、今年以上の結果を出せるようにみんなで協力して頑張りたいと思いました。

【3学年クラスアピール担当：浅沼 心】

私は、今回で二度目のクラスアピールでした。ですが、2年ぶりのクラスアピールだったので、すごく緊張しました。他のパートリーダーの人にも協力してもらい、クラスアピールを完成させることができました。最後の合唱コンクール、失敗せず終わられて良かったです。

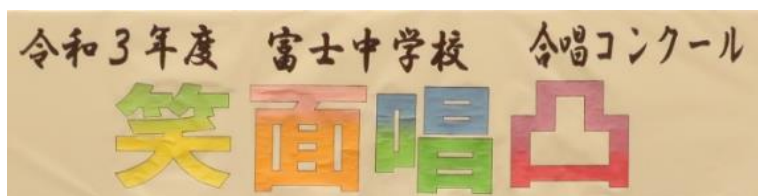
クラスの合唱練習は、練習が始まって最初の方は、クラスからのやる気を感じられず不安でした。練習を重ねていくうちに、少しずつやる気も出てきて合唱も良くなっていきました。本番では、最高学年として良い合唱ができました。金賞をとることができて良かったです。

【実行委員長：川上 拳聖】

今回、合唱コンクールが無事に終わって良かったです。終わってみて、いろいろあったなと思っています。各クラスがそれぞれ練習をし、本番に臨みました。3年生は曲責を中心に、2年生は去年よりも良い合唱に、1年生は初めての中、一生懸命頑張っていたと思います。結果が悔しかったというクラスもあるかもしれませんが、その思いを来年につなげてほしいと思っています。

実行委員側は、裏で舞台準備などに力を入れていました。リハーサルで動きの確認や道具の管理などを入念に行ったので、本番では何事もトラブルなく終わることができました。

最後に言いたいのは、合唱コンクールは歌うだけではなく、共に人間性も高められると思っています。なので、合唱コンクールのみならず、学校行事すべてに意味があることだと思って大切にしてもらいたいと思います。



1 2月の主な予定

2日(木) 3年しゃべおじゃ終 体力向上(放)	15日(水) 道徳いじめ防止教育
3日(金) 1年薬物乱用防止教室 コミュニケーション学習会(林・ホール)	16日(木) 避難訓練 委員会
6日(月) 学校朝礼 三者面談始	20日(月) 生徒会朝礼
7日(火) 体力向上(放)	21日(火) 体力向上(放)
14日(火) 三者面談終	23日(木) 大掃除
	24日(金) 終業式